

**令和6年度 農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策)のうち
農山漁村発イノベーション推進事業(農泊推進型)及び農山漁村発イノベーション整備事業(農泊推進型)
事業実施主体 評価一覧**

1. 事業評価の実施

令和6年度に実施された「農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策)のうち農山漁村発イノベーション推進事業(農泊推進型)及び農山漁村発イノベーション整備事業(農泊推進型)」の事業について、農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記4の第9の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和6年度に交付金事業を実施した北海道内の8地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。その結果、優良と認められる地区が4地区、良好と認められる地区が1地区、総合的に低調と認められる地区が3地区との評価結果となった。総合的に低調と認められる地区に対しては、重点的な指導、助言等を行う。また、今年度の評価対象ではないが昨年度に重点指導の対象となっていた3地区について、重点指導の結果を評価した。その結果、引き続き重点的な指導、助言等を行う地区は2地区であった。

3. 各地区の評価結果

11件(うち3地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
本省	北海道	函館市	函館歴史建築活用協議会 【ソフト】	●	●	● ■	▲	▲	▲	△		/	(令和3年度の事業評価でC評価) 令和6年度においても宿泊施設2棟目の運営事業者が見つからず、改修工事は未着手の状態であることから、開業できておらず目標達成には至っていない。ただし、交付金を活用した宿泊施設を中心に、地域の事業者と連携して複数の体験コンテンツを造成するなど販売強化を進めるとともに、また地域住民にも訴求を広げることを通じてレストランの利用も促進しており、売上高が前年比149%、宿泊者数が前年比181%と大幅に伸ばしたことは評価できる。 今後、宿泊施設2棟目の開業に向けた検討を続けつつ、開業している宿泊施設を中心に地域内の連携をさらに進めながらマーケティングにも注力し、誘客に向けた取組を強化していくことで、地域全体の売上増加につながる取組となるよう努められたい。
			株式会社NOTE函館 【ハード】	★ ▼	★ ▲ ▼	◆ ▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	△			
本省	北海道	長万部町	長万部町観光地域づくり協議会	● ▼	● ▲	● ■ ▼	▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	△		/	(令和3年度の事業評価でC評価) 令和6年度においても新幹線延伸工事関係者の長期滞在によって宿泊施設の確保ができず、売上高の達成率は4%、延べ宿泊者数の達成率が0%と大きく目標には及ばなかった。当面の間は、滞在する工事関係者向けに食体験メニューや物販等の提供を行うしかないと考えられるが、本来需要が阻害されている現状を踏まえ、新幹線延伸工事以降の体制づくりの機運を維持・向上していくことも重要である。 今後は、運営体制の再構築の検討をしつつ、現状でできる範囲で新たな取組をスタートさせることによって、目標達成に向けた取組となるよう努められたい。
本省	北海道	赤井川村	赤井川村農泊推進協議会	/	/	● ■ ▼	● ■ ▲ ▼	▲ ▼	▲	/	/	/	(令和4年度の事業評価でC評価) 令和6年度の実績は、「売上高」、「延べ宿泊者数」とも達成した。 体験メニュー数、食事メニュー数、特産品・土産品の開発数のいずれも目標値以上となっており、提供体制が整っている。加えて、新たに開発した特産品を活用した商品をレストランや道の駅、スキー場にて販売することで、地域の売上高の増加につながった。また、宿泊についても、地元の食材を活用した朝食を提供する宿泊プランを企画をイベントに合せて開催し、「延べ宿泊者数」の増加につながった。 今後も取組の成果を活用しながら、自立した農泊の推進を継続していくことを期待したい。
本省	北海道	仁木町	仁木町ワインツーリズム推進協議会 【ソフト】	/	/	/	●	● ■	/	/	/	/	①取組の実施状況が評価対象外、②事業実績がC評価、③事業実施体制がA評価であり、②がC評価であることから総合的な評価をC評価とする。 「仁木町産ワイン」はメディアやワイン愛好家に認知され、町内事業者のワインにも注目が集まっている。主催するワインイベントも旅行会社と連携したツアー化により二次交通の課題を解消し、精力的なプロモーション活動もあいまって来場者が前年比1.5～2倍に増加するなど着実に成果は出始めている一方、本事業で改修した宿泊施設は人材不足により営業日数が確保でき

本 省	北 海 道	上 川 町	株式会社NIKI Hillsヴィレッジ 【ハード】					★	▼	◆ ▲ ▼	△		C	ておらず、売上高や延べ宿泊者数の増加に繋がっていない。 宿泊するターゲット層を明確にして人員不足に応じた販売手法や商品開発を進めるとともに、単発のイベント開催だけに留めず、周辺ワイナリーや飲食関係者、近隣自治体との広域連携も視野に入れつつ、地域滞在型のワインツーリズムに取り組むことにより宿泊施設の実績につながるよう努められたい。
本 省	北 海 道	足 寄 町 ・ 本 別 町	ちほく銀河野里農泊推進協議会						● ▼	● ■ ▲			A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てがA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 取組状況においては、インバウンド受入実績の乏しい地域において、外国人モニターの招聘及び英語をメインにしたコミュニケーション能力向上に向けた学習会を行い、インバウンドの受入に取り組んでいる。また、地域の農地林地の特徴を活かした遊歩道や景観ヤグラなどを利用した体験も利用者の増加につながっており売上高及び延べ宿泊者数の目標を達成している。 引き続き、事業の成果を活かしていくことで、売上高及び延べ宿泊者数の維持・増加につながることを期待したい。
本 省	北 海 道	美 唄 市	一般社団法人ステイびばい						●	● ■			B	①取組状況がB評価、②事業実績がB評価、③事業実施体制がB評価であり、A評価が半数以下であることから総合的評価をB評価とする。 事業実施計画に定められた取組内容については概ね実施され、実施体制も中核法人が中心となり、地域全体の活動として計画通り整備されている。体験コンテンツの開発が評価指標を上回るなど、一定の成果を上げており、その効果もあって「売上高」が目標を大幅に上回っていることは評価できる。一方で、「延べ宿泊者数」は前年度の実績を下回っており、目標を達成できておらず、食事メニューの開発についても、評価指標を下回っている。 令和6年度は、新しい地域資源として菜の花を活用し、食の開発や染め物体験メニュー等の滞在コンテンツを開発するとともに、近年増加しているインバウンドを意識した国外への情報発信に力を入れた点は評価できる。引き続き、事業の成果を活かすとともに、令和7年度から実施する農泊推進事業（経営強化タイプ）を活用して、高付加価値化を目指すことで、「売上高」、「延べ宿泊者数」の更なる向上に期待したい。
本 省	北 海 道	上 川 町	地域DMO大雪山ツアーズ株式会社						● ▼	● ■ ▲			A	①取組の実施状況がB評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合的評価をA評価とする。 取組内容が一部計画どおりに実施できなかったところはあるものの、造成した体験プログラムの観光案内所での販売、温泉旅館と連携による学習塾夏季セミナーの受注、さらにアンテナショップへのイベント出展で物産品の販売と併せた誘客促進を行うことで、売上高及び延べ宿泊者数の目標を達成している。また、事業実施体制も中核法人を中心として、役割分担が明確化され、JAを通じた複数の農家やカフェとの関係の広がりもできている。 事業完了後も、開発を断念した特産品の検討を重ねているとのことだったので、引き続き、地域内の連携の強化をしつつ、交付金事業の成果を十分に活用しながら、地域一体的に取組を進めることによって、地域全体の収益向上につながることを期待したい。

本省	北海道	美瑛町	びえい農泊DX推進協議会 【ソフト】						●	● ■ ▼	△		C	【ソフト】は、①取組の実施状況がA評価、②事業実績がC評価、③事業実施体制がB評価であり、②がC評価であることから総合的評価をC評価とする。 【ハード】は、①取組の実施状況がA評価、②事業実績がC評価、③事業実施体制がB評価であり、②がC評価であることから総合的評価をC評価とする。 食農体験コンテンツや飲食メニュー開発、美瑛の魅力向上とインバウンド誘致を意識した情報発信などは精力的に実践されている一方で、地域交流イベントの実施に終始していて農泊として地域の特徴が見えてこない。例えばDXのコンセプトを感じさせるなどリハリのある取組が必要である。また、「延べ宿泊者数」の達成率が10%と低調であり、宿泊施設の開業が年度末まで遅れたことが要因にあるとはいえ、今後を考えると広報などで観光推進組織との連携も重要である。美瑛の新鮮な食材を活用した料理のアイデアは多数提案されており、マルシェ・調理・食育講座、体験ガイド研修の実践、宿泊・体験サービスに係る人材育成も進め、農泊に取り組む下地はできつつあるため、コンテンツ等の商品を更にブラッシュアップさせて特徴を打ち出し、次年度以降の地域の売上や延べ宿泊者数を含めて成果につながるよう努められたい。
			株式会社 Brain Trust from The Sun 【ハード】							★ ▼	◇ △		C	
本省	北海道	石狩市	「陸の孤島」浜益農泊推進協議会							●	○ □		A	①取組の状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA評価となっているため、総合的評価をA評価とする。 取組状況においては、「陸の孤島」と言われる条件的に厳しい場所ではあるが、魅力的な地域資源を活用した体験プログラムの造成、宿泊体制構築に向けた検討ワークショップなど、これらを踏まえたモニターツアーを実施することで、集客数の増加が図られている。 また、研修生のスキルアップにも取り組むなど、次年度も新たな取組の実施や既存取組をブラッシュアップすることで、継続的な農泊推進の取組につながることを期待したい。
本省	北海道	沼田町	沼田町食農魅力発信協議会 【ソフト】							● ▼	○ □ △		C	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がC評価、③事業実施体制がA評価であり、②がC評価であることから総合的評価をC評価とする。 事業実施計画に定められた取組内容については概ね実施され、実施体制も中核法人が中心となり、地域全体の活動として計画通り整備された。食事メニュー及び体験プログラムの開発についても限られた事業実施期間の中で準備し、モニタープログラムや試食会を計画通り実施するなど、成果を着実に上げていることは評価できる。一方で「売上高」については飲食店来店者数や体験プログラム参加人数が低調となり、「延べ宿泊者数」とともに目標未達となった。次年度はデスティネーションレストランを早期に整備し、プレオープンイベントなどの告知や地域のPRを行うなど、体験プログラム参加人数を増やす取組を強化することで飲食店や宿泊施設の利用を促進し目標達成に努められたい。
			合同会社machi cen 【ハード】							☆	◇		評価 対象 外	
本省	北海道	清里町	まちづくり清里地域協議会							●	○ □		A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がB評価、③事業実施体制がA評価であり、A評価が半数以上であり、かつ、C評価がないため総合的評価をA評価とする。 令和6年度の中心的な取組となったトレイルツアーの造成は、令和6年10月に開通された東北道の3つの国立公園を繋ぐ「北海道東トレイル」の一部ルートに採用されるとともに、利用者も多く今後の本格活用が期待されている。また、ロングトレイルの造成に合わせ、地域の豊かな自然・農村景観・畑作農業を活かした宿泊を伴う体験ツアーコンテンツ、地場産小麦・じゃがいも等を活用した新メニュー開発、特産加工品の商品化に繋がっているなど、一定の成果を挙げている。その他、インバウンド向けモニターツアーの実施やWEBサイト構築による情報発信に取り組まれている。次年度は食農体験コンテンツの充実を図り、地域の売上や延べ宿泊者数を含めて更なる成果を期待したい。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト事業 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
ハード事業 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) ◇・・・目標年度(計画) ◆・・・目標年度(実施済)
重点指導 ▼・・・重点指導(通知) △・・・重点指導(結果報告予定) ▲・・・重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調 評価対象外・・・評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記4の第9の3の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:大江 靖雄(東京農業大学客員教授)
委員: 市田 知子(明治大学教授)、加藤 由紀子(北海商科大学非常勤講師)、木村 宏(北海道大学客員教授)、森 久美子(作家・拓殖大学北海道短期大学客員教授)

【令和7年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会
1 日 時 :令和7年7月28日(月) 13:25～16:40 2 場 所 :農林水産省農村振興局第5会議室 3 出席委員:大江委員長、市田委員、加藤委員、木村委員、森委員 4 議事概要 ① 令和7年度評価対象地区の評価方法について 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和7年度評価対象地区の評価及び取組状況について 令和6年度に事業を実施した8地区の取組概要、評価案及び評価が低調と認められる地区に対する重点指導案に関して説明し、質疑応答を行った。 また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた3地区の重点指導結果に関して説明し、質疑応答を行った。 5 主な意見 ・ なかなか特徴が見えてこない地域においては、もっとメリハリのある取組をしてもらう必要がある。 ・ 経営者が高齢化している現状を踏まえ、世代交代も含めて次世代を考えて未来へ志向してほしい。
第2回評価委員会
1 日 時 :令和7年8月25日(月) 13:30～15:35 2 場 所 :オンライン 3 出席委員: 大江委員長、加藤委員、木村委員、森委員 4 議事概要 ・ 第1回評価委員会における質問への回答及び評価結果案 令和6年度に事業を実施した8地区の評価案等に関して、了承を得た。 また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた3地区の重点指導結果に関して、了解を得た。 5 主な意見 なし

事業実施主体名：函館歴史建築活用協議会・株式会社NOTE函館

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 函館市	令和元年	函館を満喫できる体験プログラム等を開発・運営し、文化レベルの高い客層を誘致。また、地域連携型のプログラム開発や運営を担う人材を育成し、持続的・発展的な取り組みとする。	空き倉庫を改修し、国内外の富裕層をターゲットとする「漁業と異国文化の港町・函館」を体感できる宿泊施設・レストランとして活用する。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和5年度においては、宿泊と食事が一体となった体験コンテンツを活かした取組で宿泊単価を大幅に伸ばしているが、一方で宿泊人泊は前年より減少するなど目標達成には程遠い。昨年の事業評価からヒアリングを経て現在に至るまでの経過を検証すると、実施主体、宿泊・食事部門、体験・交流部門の3事業者間の連携による取組が進まず活力を感じない。通年で販売を伸ばすためには、宿泊プラン料金、販売手法の見直しと周辺の宿泊施設・事業者との連携した体験プランの拡充に着手すべきであり、事業で整備した施設(宿泊、レストラン)の魅力と併せてPRすれば誘客の成果が見込める。

2. 低調と評価された要因

目標設定が宿泊施設2棟で営業することを前提に設定されているが、現在に至るまで宿泊施設は1棟のみ、2棟目の開発が進んでいない。施設の稼働が計画の半分であるにより「売上高」「延べ宿泊者数」のいずれも目標に大きく届いていない。

3. 目標達成に向けた方策

- ・実施主体がマネジメント体制を強化し、宿泊・食事・体験の各事業者と意見交換の場を定期的に設定する。オンラインミーティングで販売分析、現地会議で事業推進、総会での実績報告などにより、連携を強化し地域活力を底上げする。
- ・マーケティング体制の確立に向け、体験プラン拡充、通年で宿泊プラン販売、インバウンド販促の強化に取り組む。事業者間で実行計画を策定し定期的に進捗共有しながら、自治体・DMO・地域事業者・OTA事業者と連携したプロモーションを推進する。
- ・売上目標を達成させるために、宿泊は繁忙期は単価を上げ、閑散期には稼働を高め、食事・体験プランは宿泊者に限らず、旅行者・地元客を幅広く受け入れるなど需要拡大により収益を確保する、併せて計画中である宿泊施設2棟目を早期に開業させる準備を進める。

4. 改善状況

昨年度の助言結果を事業者間で共有し、運営事業者を中心に販促施策を検討。特産である「がごめ昆布」を使ったスパ体験プログラムの企画販売、地域の老舗和菓子店と連携したアフタヌーンティー企画を開催し好評を得ているほか、積極的に地域との連携を図り、シェフによる地域食材を活用した地元の主婦の方々向けの料理教室にも参加するなど宿泊客だけでなく地域住民にも訴求を広げ、宿泊客以外のレストランの予約やリピーター創出につなげている。その他記念日(プロポーズ)での利用も月に2～3件あることから新たに地域のドレスショップとの連携も企画中。また顧客へのコミュニケーション強化によりインバウンドのロコミを毎月5軒ほど取得。ロコミ表示が上がり、上位掲載されることで海外OTAからの流入が増加。宿泊売上全体の10%弱を訪日外国人が占めるなど、インバウンドに向けたマーケティング施策を強化することで、売上の底上げを実現。合わせて時期に準じたレートコントロールを行い、前年より閑散期の単価を下げ客数を増やす施策を行うことで延べ宿泊人泊数が前年比181%、売上高が前年比149%の大幅増につながった。宿泊売上については1棟未開業状態で目標達成率82.9%まで改善している。

今後については、宿泊施設2棟目の開業に向けた検討は続けつつ、現状に合わせた改善計画を策定し、軌道に乗りつつある1棟を中心とし、地域一体的な受入体制を継続していくことで、地域全体の売上が増加していくことを期待したい。

事業実施主体名:長万部町観光地域づくり協議会

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(※1)
北海道 長万部町	令和元年度	通過型から滞在型へと観光客を呼び込めるように、農業・漁業を中心とした新たな体験コンテンツの造成を図り、農林水産関連の消費拡大を図るとともに、新たな観光として「農泊」を定着させる。	—

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

長万部町においては、新幹線延伸工事の影響から、観光客向けの宿泊施設が不足しているという問題があるが、早期の予約受入で宿泊施設を確保するなどの工夫をすることで、農泊の受入における宿泊施設の確保を図り、また事業で造成した食事メニューや体験コンテンツを積極的にPRし、活用することで、新幹線延伸工事の関係者に頼らず、目標の達成を図ること。加えて、施設の老朽化や後継者不足といった課題を抱えている宿泊施設については、新幹線延伸工事終了後も見据え、今後の農泊に関する宿泊施設への対応、地域の資源の活用などの方策を整理すること。
今後、事業の遂行にあたり進捗や課題等が発生した場合は、その都度、農林水産省に報告すること。

2. 低調と評価された要因

令和5年度の実績は、「売上高」及び「延べ宿泊者数」について目標値を達成したものの、この実績は新幹線延伸工事の工事関係者も含まれており、工事終了後においても「売上高」及び「延べ宿泊者数」が確保出来るか不明な点もある。新たな地域資源の提供など、町の農泊の魅力を発信し、町単独での誘客にも繋げていくことで、目標の達成と事業の更なる発展を期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

近隣の黒松内町、豊浦町で構成するはっこ同盟の温泉旅館や民宿など施設の利用が不可能な状況であるが、当面の間は体験型コンテンツの開発やブラッシュアップ、日帰り訪問客の獲得しながら、ファンづくりに努めたい。新幹線開通後において、高付加価値商品や滞在時間の延長となる足がかりとなる基盤を整備していく。また、教育旅行の取引における旅行会社との接点もできたことから、積極的に体験型コンテンツの情報発信、加えて食に関する体験プログラムの提案を継続的に行っていく。

4. 改善状況

令和6年度の実績については、達成率として、売上高:4.0%(令和5年度は117.5%)、延べ宿泊者数は0.0%(令和5年度は257.5%)となっており、未達となった。新幹線延伸工事関係者に依存することなく目標の達成を図るための取り組みを行ったが、これまで以上の工事関係者の長期滞在によって宿泊施設の確保が出来ず、実績は大きく目標には及ばなかった。
現状で取組可能な新たなコンテンツ開発と販売、磨き上げをし、旅行会社への営業活動、及び工事関係者向けのプログラムの販売、地域の特産品の販売を行い、売上高の確保とファンづくりに注力し、令和7年度以降スムーズに対応出来る体制、販売を構築する必要がある。

事業実施主体名:赤井川村農泊推進協議会

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(※1)
北海道 赤井川村	令和3年度	『農業と食』、『食と遊び』、『遊びと農業』といったような、様々なお客様ニーズに合わせた多彩なプランを設計、開発するために、様々な体験コンテンツや食メニューの開発等を行う。	—

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

村内リゾートホテルと連携することで宿泊者の増加を図るとともに、それ以外の村内宿泊施設についても連携を強化するとともに、OTA販売体制を構築するなど、宿泊受入体制を強化し、併せて事業で創出した体験コンテンツを活かして、宿泊と体験を組み合わせたコンテンツの販売を行うことなどにより、宿泊者数の増加を図るべきである。

食事メニュー、体験コンテンツとともに、農泊事業の成果を最大限に活かし、多様な地域資源の更なる有効活用を検討し、農泊の取組を進めること。

今後、事業の遂行にあたり進捗や課題等が発生した場合は、その都度、農林水産省に報告すること。

2. 低調と評価された要因

令和5年度においては、「売上高」については、開発した食事メニューの販売等により実績を大きく伸ばし、目標値を大幅に超える成果が得られた。一方「延べ宿泊者数」については、村内リゾートホテルにおいて一部を除き夏季休業をしたこと、その他宿泊施設については北海道新幹線工事関係者で満室となっているなどの影響から、目標値に及ばない結果となった。

食事メニューの提供等は継続するとともに、積極的な情報発信や宿泊施設等との連携を強化することで、事業で創出した特産品及び体験コンテンツを宿泊と併せて販売することなどにより、目標の達成と事業の更なる発展を期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

宿泊者数の増加を目指した取組として、村内の宿泊施設にて赤井川フェアの朝食企画を秋に開催し、地元の農家さんから提供される生野菜サラダや村内の農場から仕入れた搾りたて牛乳、ベーコン等を提供する宿泊プランを提供を開始。

実施したホテルは食事付きパッケージをあまり得意としないホテルコンドミニアムでありながらも、この取組により、朝食を利用するお客様が増え、次年度も実施する方向で進めている。

そのほか、今年度新たに開発した特産品を活用した商品をレストランや道の駅、スキー場にて販売した結果、売上の増加につながった。

<開発した商品>

- ・かぼちゃのロールケーキ(堂島ロールとのコラボ商品) レストランにて販売、ふるさと納税の返礼品として今年10月に販売開始。
- ・カルデラポテトチップス 1,500袋 あかいがわ道の駅、スキー場にて販売 *3月にて完売
- ・かぼちゃ饅頭 6個入りギフト スキー場のショップにて販売

4. 改善状況

令和6年度の実績については、達成率として、売上高:278.6%(令和5年度は121.4%)、延べ宿泊者数は123.5%(令和4年度は13%)となっており、前年実績からも大きく増加し、達成している。

令和5年度までの取組結果として、農泊体験メニュー数、越冬野菜ランチの提供数、食事メニュー数、特産品・土産品の開発数のいずれも目標値を達成しており、越冬野菜のランチについては、令和6年度に実績をさらに伸ばし達成率650%と大きな成果を上げている。加えて、新たに開発した特産品を活用した商品をレストランや道の駅、スキー場にて販売することで、地域の売上高の増加につながっている。また、宿泊についても、地元の食材を活用した朝食を提供する宿泊プランを企画を赤井川フェアに合せて開催し、「延べ宿泊者数」の増加につながっている。

今後、引き続き地域内の連携を強化するとともに、開発した体験メニュー、食事メニュー、商品を活用しながら、魅力的な宿泊プランを継続的に提供することで、さらなる地域の売上高の増加につながる取組となることを期待したい。

事業実施主体名:仁木町ワインツーリズム推進協議会

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(市町村・中核法人実施型)	取組概要(※1)
北海道 仁木町	令和4年度	ワイナリー事業者、宿泊・飲食事業者等が密接に連携し、滞在型体験プログラムの開発、プロモーションにより、滞在訪問客の増加と地域住民との交流促進により地域活性化を図る「滞在型ワインツーリズム」のモデル構築を目指す。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

施設整備事業で改修した宿泊施設(Orchard House)はまずは、営業日数を確保できるよう体制を整えること。現時点で情報発信が不足していると考えられ、OTAサイト登録や、NIKI Hillsヴィレッジの宿泊リピーター等への周知、旅行会社等を経由したグループの取り込みなどの予約の流入経路の確保を行うこと。

また、単発のイベント開催に留めず、通年で体験・食事を提供できる体制を構築し、旅行者の来訪動機を高め売上高と延べ宿泊者数の目標達成に向けて取組むこと。

今後、事業の遂行にあたり進捗や課題等が発生した場合は、その都度、農林水産省に報告すること。

2. 低調と評価された要因

実施体制、取組状況については、協議会内で定期的な会合を開催し、実践型のワークショップとして町内のワイナリーや飲食関係者とともに3つのイベントを企画し、計画通りの取組が行われているため評価は「A」とした。事業実績については農泊推進事業で取組んでいる既存の宿泊施設の延べ宿泊人数、協議会としての売上高は順調に増加し目標を大きく達成しているものの、施設整備事業で改修した宿泊施設が消防法令適合に時間を要し、10月からの稼働となりグリーンシーズンの営業ができなかったこと等により目標に届かなかったため評価は「C」とした。

事業実績が評価「C」のため、総合的評価も「C」となるが、ワイナリーや飲食関係者等が連携し地域として滞在されるワインツーリズムの下地は出来つつある。施設整備事業で改修した宿泊施設は令和6年度は営業日数を確保するとともに、OTAサイト登録や、グループの取り込みなどを行い、売上高・延べ宿泊者数の目標達成に向けて取組むことを期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

スポットでの受け入れ回数を増やす、地域貢献型インターシップの受入れや、後志管内の高校生を対象とした「就農体験」での施設利用、企業の研修誘致での活用を行った。また、近隣の飲食店と連携した泊食分離を活用し、「売上高」及び「延べ宿泊者数」を確保する。

単発のイベント開催に留めず、通年で体験・食事を提供できる体制を構築し、旅行者の来訪動機を高め「売上高」と「延べ宿泊者数」の目標達成に向けて取り組む。

4. 改善状況

令和6年度の実績については、達成率として、売上高:29.3%(令和5年度は12.9%)、延べ宿泊者数は70.5%(令和5年度は8.7%)となっており、未達となった。長期滞在のニーズと素泊まりを受け入れることにより延べ宿泊者数増加したものの、売上高の増加にはつながらなかった。

農泊の取組としては、「仁木町産ワイン」についてメディアやワイン愛好家の方に認知され町内事業者のワインに注目が集まっているなか、主催するワインイベントでは、旅行会社と連携したツアー化により二次交通の課題を解消、精力的なプロモーション活動もあいまって前年比1.5～2倍の規模にまで広げて開催するなど着実に成果は始めている。

今後は、単発のイベント開催だけに留めず、旅行者の来訪動機を高めるような滞在型体験プログラムの開発及びプロモーションを行うなど、通年で体験・食事を提供できる体制を構築して、宿泊施設の実績につなげる取組とする必要がある。

事業実施主体名:ちほく銀河野里農泊推進協議会

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
北海道 足寄町 本別町	令和5年度	長時間滞在に向きの農地林地等を安心快適な、滞在＝農泊体験のコンテンツ作り、閑散期と繁忙期の平準化への取組、通年雇用農泊プロパーを創出	—

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

研修生の受入については、ホームページでの募集は引き続き行うとともに、機会あるごとに関係機関に対して、研修生を受け入れるための募集を行っていることを説明するなど、幅広く照会を行うべきである。
事業実績については、目標値に達しているが、引き続き、令和6年度の目標値も達成できるよう取組を進めること。
今後、事業の遂行にあたり進捗や課題等が発生した場合は、その都度、農林水産省に報告すること。

2. 低調と評価された要因

令和5年度においては、人材活用事業で研修生の受け入れに対して応募がなく、採用できなかったことから、取組状況が目標値に及ばない結果となった。
事業実績は目標値を満たしており、また、実施体制についても役割分担が明確であることから、引き続き、目標値を達成することに期待したい。
また、取組状況の研修生の受け入れについては、ホームページの活用並びに地域内での募集活動を行うことで、採用につなげていただけることを期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

人材活用事業の研修生の受け入れについては、令和5年度の募集効果もあり、2名のうち1名が令和6年度当初から受け入れることができた。
もう1名については、引き続きホームページの活用や関係機関に対して機会あるごとに、募集についての説明を行う。

4. 改善状況

令和6年度の人材活用事業の研修生の受入実績については、2名のうち1名を受け入れることができた。達成率としては50%(令和5年度:0%)であり、b判定であることから目標は達成できた。
研修生を受け入れることができ、新たに整備した遊歩道の管理、受入対応などの実務を経験し、ハスカップなどの果樹の栽培、採取体験の提案など、新たな視点での企画提案も行うなど、農泊滞在の受入体制の強化が図られた。

事業実施主体名:地域DMO大雪山ツアーズ株式会社

令和7年8月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業、人材活用事業)	取組概要(※1)
北海道 上川町	令和5年度	地域資源を活用した体験プログラム、特産品等を開発し、地域のキャッシュポイントを増やすことにより、滞在時間・満足度の増加、ファミリー層の拡大を目指す。	—

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

観光地として一定の集客が見込める地域であるため、いかに来訪者の滞在時間を伸ばし、消費額を増やすかが重要である。登山や、紅葉、氷瀑祭りなど集客力のあるコンテンツがあるので、その来訪者に対し、造成した体験プログラム、食事を積極的に情報発信し販売していく必要がある。

屋外の体験プログラムだけでなく、悪天候時にもホテル等屋内で体験できるプログラムの造成などにより、売上高・延べ宿泊者数の目標達成に向けて取組むこと。

今後、事業の遂行にあたり進捗や課題等が発生した場合は、その都度、農林水産省に報告すること。

2. 低調と評価された要因

令和5年度においては、事業の着手が10月下旬からと遅れたことで、造成したプログラムを事業年度内に実施する期間が短ったことや暖冬の影響により冬の休耕地を活用したプログラムが実施できなかった等の要因はあるが、売上高、延べ宿泊人数ともに目標値には大きく及ばない結果となったため、総合的評価は「C」とした。

体験プログラム、食事メニュー、特産品の開発・販売等は継続するとともに、地域の多様な関係者との連携をより強化することで、売上高・延べ宿泊者数の目標達成に向けて取組むことを期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

体験プログラムの開発や地域の農産品を使った食事メニューの開発を行い、観光案内所での販売品目を増やしつつ、温泉旅館との連携した学習塾の夏季セミナーを実施することで売上高及び延べ宿泊者数の改善を目指す。また、アンテナショップのイベント出展を行い、特産品を販売しながら誘客のつながるよう体験メニュー等のPRを併せて行う。

4. 改善状況

令和6年度の実績については、達成率として、売上高:125%(令和5年度は22.7%)、延べ宿泊者数は110.2%(令和5年度は20%)となっており、売上高及び延べ宿泊者数を増加させ目標を達成している。

令和6年度の取組により、体験プログラムを充実させ、造成した体験プログラムの観光案内所での販売、温泉旅館と連携による学習塾夏季セミナーの受注、さらにアンテナショップへのイベント出展で物産品の販売と併せた誘客促進を行うことで、確実な実績につながった。また、事業実施体制も中核法人を中心として、役割分担が明確化され、JAを通じた複数の農家やカフェとの関係の広がりもできている。

開発を断念した特産品についても、事業完了後も検討を重ねているとのことだったので、引き続き、地域内の連携の強化をしつつ、交付金事業の成果を十分に活用しながら、地域一体的に取組を進めることによって、地域全体の収益向上につながることを期待したい。